

拝啓 師走の候、平素は格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

弊社では、自衛隊の後方支援分野におけるこれまでの経験や知見を踏まえて、自衛隊の後方支援に関わる各種の検討及び取組についての提案活動を実施しております。

本号では、データ分析やAI/RPA等の最新技術を取り入れたDXを推し進める上で、参考となるマネジメント手法を紹介させていただきました。

今後の取組にあたって参考にいただければ幸いです。

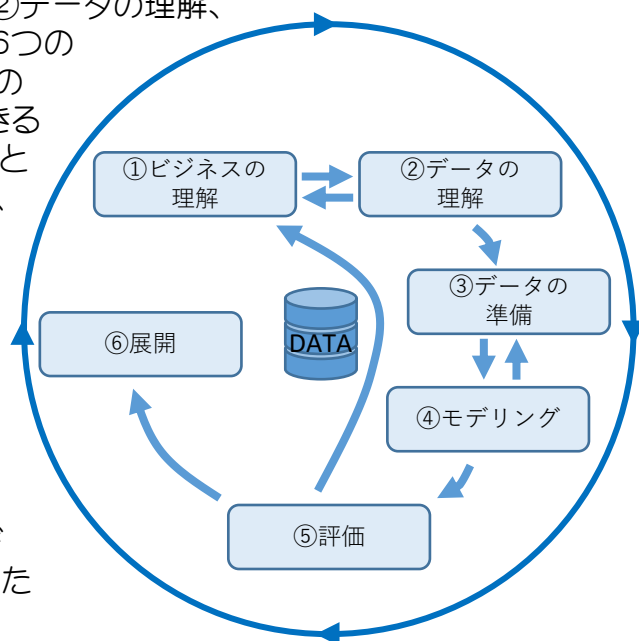
敬具

代表取締役 清水 俊宏

一年前の2019年冬号ではデータ分析の有効性を、また2020年夏号ではコロナ禍におけるデジタル技術による業務やビジネスの変革(以下、「DX」)の必要性を紹介させていただきました。しかし、現時点においては、データ分析の導入もDXの取り組みも、まだ行っていない組織が数多くあるようです。その理由としては、「どのように進めたらよいか分からない」ことが最も多いように感じます。細かく見ると、「何から始めたらいいのか」「どのように目標を定めたらいいのか」「どのくらいの期間を要するのか」「担当者、どのくらいの負担がかかるのか」といった声があるとされています。つまり、安心して着手できる標準的な検討の方針や手順が求められていると捉えることができます。経済産業省においても、2018年12月にDX推進ガイドラインを作成し、経営トップの強いコミットメントによるDXの推進を促していますが、具体的に何から始めたらよいか分からない等によって、なかなか進んでいないのが実態のようです。

しかし、このコロナ禍において、テレワークやWEB会議等のオンラインを活用したワークスタイルへの対応を迫られて、頭を抱えている経営者が多いのではないのでしょうか。実際、データ分析の導入やDXについては、細かく見ると、組織の特性や直面する課題に応じたケースバイケースの進め方が必要になります。しかし、検討の方針や大きな単位での手順については、ある程度共通のフレームワークを定めておくことで、組織の経営者は安心感を得ることができるのではないのでしょうか。そこで、その共通のフレームワークの一つとして1990年代後半頃に考案されたデータ分析におけるマネジメント技法であるCRISP-DM (CRoss-Industry Standard Process for Data Mining)を紹介します。

CRISP-DMは、右図のように、①ビジネスの理解、②データの理解、③データの準備、④モデリング、⑤評価、⑥展開の6つのプロセスから構成されますが、ウォーターフォールのような一方通行ではなく、プロセス間を行き来できるようになっています。これは、すべてを確定しないと次に進めない手順ではなく、暫定的に進めてから、必要に応じて前プロセスに戻って微修正したり、その時点で分かる内容をもとに仮説を設定して、後の検証プロセスで確認し、結果に応じて戻って仮説を見直すことが可能なものになっています。膨大なデータから、今まで誰も気がつかなかった業務間あるいはデータ間の関係性等を導き出し、それをモデルとして定義することは、容易なことではありません。試行錯誤を繰り返して、ようやく最適な関係性等を表現できるモデルを得ることができます。したがって、このプロセスは、理にかなったものになっています。



CRISP-DMは、もともとはデータ分析（特にデータマイニング）の導入に向けたマネジメント技法として考案されましたが、まさに今求められているDXを推し進める有効な手法の一つとしても注目されています。特に、システム化や自動化を目指す際においても、現状の業務を丁寧に分析し、ビジネス的な背景を理解して、直面する課題を把握することができる①ビジネスの理解のプロセスがあること、そして、プロセス間で行き来があるために検証と調整を繰り返し実施できることで、信頼性が高い手法であると評価されています。

従来の業務・システムは、その開発時点における情報技術を前提として最適化が図られているものの、情報技術の高度化のスピードは想像以上に速く、2～3年もすれば陳腐化してしまうといった状況です。現在、様々なシステムがクラウドを採用していますが、クラウド基盤においてもハードウェアの定期的な更新は不可欠です。このような環境の中で、業務・システムを最新の状態に保つことは決して容易ではありませんが、数年間隔でハードウェアを更新しつつ、業務及びソフトウェアについても、トレンドに合わせて継続的に自動化や効率化を図ることが必要になります。その際、業務・システム全体のリソースや負荷のバランスを確保しつつ、直面する課題や潜在的なリスクを取り除き、最適化を実現することが求められます。そして、この業務・システムの最適化においては、CRISP-DMに基づいたDXは、理想的な進め方の一つになると言えるでしょう。

自衛隊の後方支援業務においては、様々な実績データを最大限に活用して、装備品等について万全の準備を整えるとともに、明らかになった不具合等に対して速やかに処置等を行うことが求められます。したがって、データ分析の活用をはじめ、AI/RPA等の最新技術の導入については、故障発生等の予測精度の向上及び不具合探求等の分析処理の迅速化に大いに役立つはずです。だからこそ、膨大な実績データの活用やAI/RPA等の導入は、業務の効率化に寄与するものとして、大きな期待が寄せられるでしょう。しかし、従来の業務・システムからの変化に対する不安や導入効果の大きさを疑問視する声等によって、DXの一步をなかなか踏み出せずにいるケースも多いと想定されます。従来の業務・システムにようやく慣れてきたのに、本当に変える必要があるのか、と感じる現場の担当者も少なからずいるでしょう。このような状況においては、現状の業務を丁寧に分析した上で、確実な効果を確認できる部分から体系的に改善施策を推し進めるCRISP-DM等の手順に従って、関係者の理解を得ながら進めてはいかがでしょうか。

防衛省・自衛隊では、後方支援分野のみならず、数多くの情報システムが運用されており、適宜、機器の更新が行われ、同時に当該システムの機能や性能の改善・向上を行っていると言います。またクラウド化も進められていると言います。そのような取り組みの中で、CRISP-DM等の手順を取り入れつつ、常に時代にマッチした情報システムを運用されることを期待します。

#### 【お知らせ】

弊社では、コーチングの提供、コーチングの手法を活用した人材育成の導入支援、コーチング研修の講師等を行っています。また今秋からは、パワハラを防止するための対策として注目を集めているアンガーマネジメントの紹介も行っています。

このコロナ禍においては、長期の自粛によるイライラの増加等によってコミュニケーショントラブルが多くなり、コーチングやアンガーマネジメントの有用性が再認識されています。

今はまだ集合形式の研修は難しい状況ですが、オンラインも活用しながら、今だからこそ求められる適切なコミュニケーション等の習得に向けて、お役に立てるよう準備を整えています。

今後も、集合形式はもちろん、オンライン形式でも、コーチングやアンガーマネジメントの紹介及び研修を、各地で提供させていただく予定です。興味のある方は、お気軽にお問合せください。

#### 【発行者】

株式会社 アーパス 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南3-63-6

電話：080-6679-0594 E-mail：t.shimizu@apasnets.com